

# しずおか平和の風

No.12  
2016年4月22日  
発行  
静岡市  
平和委員会  
静岡市葵区鷹匠  
1-5-8  
TEL 253-1854  
FAX 252-0785  
メール  
Peace-City  
@mail.707.to

4月9日、市民文化会館大会議室で、標記の集会在開催されました。主催は、県

がきっかけとなり、立場や考えの違いは横に置いたゆるやかな

言。共産党、社民党、新社会党、緑の党の代表がそれぞれ決意を表明しました。

平和委員会も参加する「憲法を守りいかす静岡共同センター」

連帯が生まれ、それが当面の問題である原発に立ち向かう闘争になり、安保関連法反対につながった。」と現状を語り



↑左から緑の党、共産党、民進党、新社会党、社民党の各政党代表

「静岡・沖繩を語る会」「静岡県弁護士9条の会」「戦争をさせない1000人委員会・静岡」「PEACE POWER静岡」「ミナシズみんなで選挙@静岡」の6者。3時間にわたる集会に約200人が参加しました。

「運動の中では、相手に対するリスベクトが大切。個人の尊厳を踏みこじる政権を相手にしているのだから、個人の尊厳を認め合う運動でなくてはならない。野党がつながるといふ問題でもお互いの違いを認め合うリスベクトを忘れない。今度の参議院選挙では、32ある一人区で11くらい勝てれば3分の2を阻止することが出来る。衆議院でも、何としても3分の2をこらせないことが大切。」と運動のポイントを強調しました。

最後は、ミナシズの望月友佑さんが、「ぜひ、市民と野党がともに協力し合い、立憲主義と平和主義を取り戻す戦いに勝利しましょう」とアピールしました。

## 市民と野党は共闘！

### 「中野晃一さん講演会&シンポジウム」を開催

「野党の共闘が進んできているが、このような状況はかつてなかったこと。それを実現したのは、盛り上がった市民の力。3・11後の原発事故

第二部は、政党・候補者の発

との大切さを訴



↑集会終了後「ユナイト」とアピールする集会参加者

◇◇◇ 憲法を考える市民の集い ◇◇◇  
日時 5月3日(火・祝) 13時30分～16時30分  
会場 労政会館  
13時30分～一胡演奏 鈴木 裕子  
14時～記念講演 西谷 文和(フリージャーナリスト)  
―シリア・アフガニスタン戦争の現状と日本国憲法―  
主催 静岡県憲法会議

明日を決めるのは私たち！平和といのち・人権を！

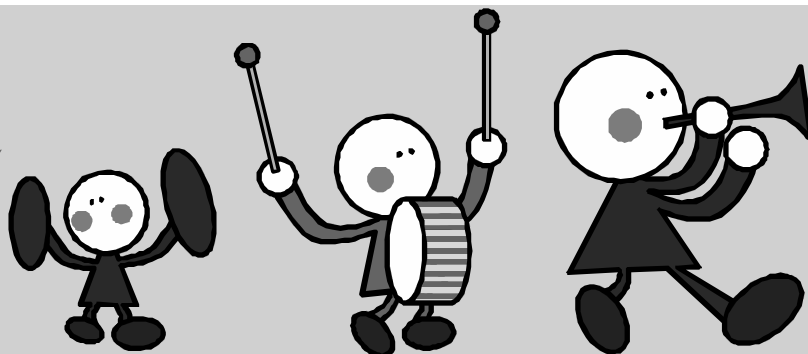
## 5・3 静岡総がかり行動

日時 5月3日(火・祝)

集会10:00～10:45 パレード10:50～

会場 常磐公園 参加規模 1200名

主催: 5・3 総がかり行動実行委員会



# 憲法が息づく地域をめざして

## 第二次世界大戦で焼津の漁船は？

安倍内閣により日本を戦争に導く憲法破壊の戦争法がごり押しされ、国民の大きな怒りを呼んでいます。防衛省はこれに先立つ昨年6月、「民間船舶の運航・管理事業に関する実施方針」を決定しました。（災害時などに備え）、常時運航可能な体制確保が必要として、民間ヘリの調達・維持管理・運航、予備自衛官の活用を含む船員の確保を一元的に行うとっています。これは一体何をしようとしているのか？第二次世界大戦の時を振り返ってみる必要があります。

アジア・太平洋戦争で民間の船舶や船員が戦争に駆り出され、撃沈された船舶は15,518隻にのぼり、船員死亡者は60,609人にのぼりました。この内、死亡時に14歳の少年が987人、20歳未満の少年が19,048人にのぼりました。

私は焼津に生まれ、焼津で育ち、父親と兄は漁師でした。私が小さかった頃は、焼津の港も小さく、漁船（カツオ・マグロ船）も50～100トンくらいのものが多かったと思います。太平洋戦争では、そんな漁船が徴用され、113隻（陸軍29隻、海軍70隻、農林他14隻）ものカツオ・マグロ船が戦場に駆り出されました。初期には、軍隊の遠征先への食糧や燃料・武器などの補給が主な任務でしたが、戦況の悪化に伴い太平洋の担当地域への哨戒が主要任務になりました。携帯武器は機関銃1丁、小銃2～3丁、ほとんど丸腰に近い状態でした。この内、59隻がアメリカ軍に撃沈され、戦死者は401人にのぼりました。

私の義兄・武もその一人でした。武は昭和11年3月（14歳）に第5恵比寿丸（131トン）の船員になり、昭和16年5月に海軍に徴用され、16年10月に機関科予備補習となりました。そして、第5恵比寿丸は、昭和18年4月30日、本州東方太平洋海面（東経155度零分、北緯37度34分）で消息不明となり、撃沈、乗組員全員戦死と認定。遺族には戦死の公報だけで、本人の遺骨もない、あわれな葬式。

## 二度と繰り返してはならない戦争体験

私達はこうした悲惨な戦争体験から、改憲、戦争する国づくりを急ぐ自民党のたくらみを打ち砕くために、どう世論を盛り上げるか話し合いました。

「私達は、憲法の学習を通して、憲法9条を守り、『平和で戦争のない世界実現のため、この地域でどう活動するか』を真剣に話し合いました。」

こうした話し合いの結果、次のような事を決めました。①著名な人の話を聞く会でなく、美和地域に関係する人の戦争体験を掘り起こし、語り継ぐ場とする事。②参加費は無料とし、資料代として100円のカンパをお願いする。③会場は公民館を中心に、夏休み中は小学校など公共の会場を使用する。④各町内会、老人会、学校などに集会の案内チラシの配布をお願いする。

こうして『美和地域の人々の戦争体験を掘り起こし、語り継ぐことによって、戦争の恐ろしさと平和の尊さを知らせて行こう。』という事になりました。

「美和地域戦争体験を聞く会・語る会・・・語り継ぎたい戦争の話」が始められたのが平成18年8月15日でした。それから、毎年3回（6月19日の静岡空襲の日、8月15日の第二次大戦敗戦記念日、12月8日の太平洋戦争開戦記念日）戦争体験を聞く会を行い、美和地域に関係ある方々の戦争体験を掘り起こし、語り継いできました。初めは、「話し手もそんなには居ないだろう」と思って始めたものの、いつの間にか31回目を迎え、話し手は（少なくとも方々が亡くなられましたが）60人を超え、参加者も延べ1300人を超えました。

「聞く会」の内容は、当初は体験者のお話しだけでしたが、「お話籠」の板倉さんによる朗読、「ねこバス」さんによる読み聞かせなども加わりました。

会の運営は、会長・事務局（10人）で月に1～2回話し合い、町内の戦争体験者や家族などを訪問し、話し手を決めてきました。

このような会を続けるうえでの問題の一つは、講師への謝礼などと合わせた運営費ですが、話し手への謝礼は無料（1000～2000円の品物のみ）でお願いし、参加者からは資料代として100円のカンパ（戦争体験を語る会のお話と、参加者の感想文の印刷物）をお願いしています。

戦争体験者も高齢となり、亡くられる方も増え、運営も困難さが増していますが、「戦争する国づくり」をストップさせ、憲法が息づく国をめざし引き続きがんばりましょう。

美和地域戦争体験を聞く会・語る会 会長 松村 行啓



### 軍国少年の

### 戦争記憶

中村 貞一

僕は1931年生まれ、中国大陸侵略の始まりの頃から、無敵日本軍連戦連勝の戦果が報じられたが、報道の割に物資不足が目立ち始め「欲しがりません勝つ迄は」と我慢が強いられた。食料事情は悪化し、道路や土手を開墾し、便所の糞尿や道路の馬糞を肥料にし、野菜やイモ類を作り飢えを凌いだ。弁当は梅干し一個の「日の丸弁当」、日を追う毎に米飯や麦飯はなくなり芋類が幅を利かせ、配給は芋蔓の粉・臭い狸肉もあった。栄

養失調による皮膚病に悩まされ、皮膚病がないと「旨い物を食べてる非国民だ」となじられ仲間外れになった。

遊びは主に兵隊ごっこや川遊びだが、小魚やしじみ・イナゴ・赤ガエル獲り等、頭の中は何時でも食への事で一杯だった。学校の便所汲み取り権で得た金で、紀元節や天皇節等の記念日に配られる干菓子や、校長先生の「天皇様や兵隊さんから頂いたから感謝しましよ」との訓示があり、皆が頭を下げ訓示の早期終了を願った。何故か鼻水をすする大合唱が印象深かった。

小学校時代を思い出し、再び戦争をする国になるのは御免だとの思いを強くしている。

